

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	20 - 学長 - 7
-----------------	-------------

平成20年度配分 研究成果の概要

研究名	ブラジルの中の日本、日本の中のブラジル—写真で見る100年、過去から未来へ—				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費				3500 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名 (研究科名)	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	文化政策 学部	国際文化 学科	教授	池上 重弘	研究及び展示企画・ 関連イベント実施の 統括、学外機関との 調整とコーディネート。
共同 研究 者	文化政策 学部	国際文化 学科	准教授	イシカワ エウニセ アケミ	移民研究の観点から の展示企画の監修、 ブラジル人コミュニテ ィとの調整
	文化政策 学部	芸術文化 学科	講師	立入 正之	アートマネジメントの 観点からの展示企画 の監修
	デザイン学部	メディア 造形学科	教授	古田 祐司	映像デザインの観点 からの展示企画の監 修
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 号 ( 年 月発行)	
	2 学会等での発表 [池上重弘] 学会等名:研究会「在日外国人支援のため のコミュニティにもとづく参加型研究(CBPR) の可能性」(大阪大学) 静岡県における在日外国人支援の試み —「移民パネル写真展」をめぐって—		発表日	平成20年11月15日	
	3 その他 発表の方法:報告書 『ブラジル人大学と高校生との座談会』 (鏡田彩乃・池上重弘編)		発表日	平成21年3月31日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

ブラジル移民 100 周年にあたる「日本ブラジル交流年」を記念して、全国で最多のブラジル人市民が暮らす浜松市において、本学の特性を十分に活かし、かつ本学学生とブラジル人中高生との交流の機会となるような移民パネル・写真展および関連イベントを開催し、日本人市民とブラジル人市民の相互理解と相互交流を図ることを目的とした。

(研究の実施方法等)

2008 年 10 月 3 日から 13 日にかけて、本学主催、JICA 中部と静岡新聞社・静岡放送の共催により、本学西ギャラリーおよびエントランスにて「ブラジルの中の日本、日本の中のブラジルー写真で見る 100 年、過去から未来へー」と題した展示会を開催した。具体的には、①移民当時の様子、②現在のブラジルにおける日系人社会の様子、③現在の浜松におけるブラジル人コミュニティの様子について、資料・写真・映像を展示した。80 名規模の学生実行委員会が組織され、学生の主体的企画をなるべく実現する方向で教員メンバーが監修・関与した。

関連イベントとして、1)座談会「ブラジル人大学生と高校生による座談会」、2)巨大絵「ドリームキャンパス～ボアタージ！手をつなごう～」、3)料理会「ブラジル・日本 まぜまぜクッキングウ～♪」を事前に開催し、展示期間中には、学習イベント「ブラ知“る”」を開催した。

(得られた成果等)

学生実行委員会が主体的に企画・運営したため、文化政策学部の学生にとっては多文化共生やまちづくり、展示イベントの企画立案に関わる研究・学習成果の発表機会となったし、デザイン学部の学生にとってはパネル制作や動画編集など、ビジュアルデザインの研究・学習成果の発表機会となった。

また、秋のオープンキャンパスに合わせて開催することで、受験生や市民にも本学の研究・教育の成果を広報することにつながった。浜松市内外からの来場者は 1,300 名に及んだ。展示では日本語、ポルトガル語、英語の多言語対応をしたことから、ブラジル人学校の生徒たちをはじめ、ブラジル人の来場者も多数あった。

さらに、上記実施内容の③のうち 1)の座談会は、本学に在籍する 3 名のブラジル人学生と浜松市内の公立高校に通うブラジル人高生が 4 時間にわたって語り合う貴重な機会となった。NHK のニュース番組でも取り上げられたし、そのエッセンスを編集した映像資料は、展示のなかでもとりわけ高い注目を浴びた。

## 1.実績報告書

### 静岡文化芸術大学 移民パネル写真展

『ブラジルの中の日本、日本の中のブラジル～写真で見る100年、過去から未来へ～』

主 催：静岡文化芸術大学

共 催：JICA 中部、静岡新聞社・静岡放送

日 時：2008年10月3日(金)から10月13日(月・休)まで。11:00～19:00

実施場所：静岡文化芸術大学 西ギャラリー（入場無料）

企画内容：日伯移民100周年を記念した、写真・パネル展を開催。歴史を紹介するだけでなく、現在の浜松市に住むブラジル人の子どもたちに着目し、かれらとの交流イベントを実施し、その様子を写真・動画で展示した。また、開催期間中に日本人の子どもたち向けのワークショップを実施した。

来場者数：1,309人

報道実績：◆は別途、新聞記事あり

7月16日(水) 静岡新聞掲載

7月20日(日) 静岡新聞掲載◆

8月4日(月) 中日新聞掲載

8月5日(火) 静岡新聞掲載◆

8月17日(日) 静岡新聞掲載◆

8月17日(日) 中日新聞掲載

8月28日(木) NHK総合『たっぷり静岡』

9月9日(火) NHK総合『おはよう日本東海版』

9月27日(土) サンパウロ新聞掲載

10月4日(土) 静岡新聞掲載

10月4日(土) 中日新聞掲載

10月4日(土) 朝日新聞掲載

10月5日(日) 静岡新聞掲載

10月5日(日) 中日新聞掲載

10月6日(月) SBS

10月10日(金) サンパウロ新聞掲載

10月16日(木) 静岡新聞掲載

## 2.子どもたちとの交流イベント

### 1) 座談会

実施日：7月19日（土）静岡文化芸術大学

参加者：日系ブラジル人高校生8名

企画内容：日本の高校に通う日系ブラジル人を対象に、現役のブラジル人大学生と進路、アイデンティティ等についてディスカッションを行った。

### 2) 巨大絵

実施日：8月3日（日）静岡文化芸術大学 出会いの広場

参加者：日本人小学生11名、ブラジル人小学生9名、ブラジル人高校生2名

企画内容：「手を取り合って共生していこう」という意味を込めて、お互いの手を合わせて作り出した絵の具で、一緒に一枚の絵を完成させた。

### 3) 料理会

実施日：(交流会) 8月9日（土）静岡文化芸術大学

(料理会) 8月16日（土）クリエート浜松

参加者：日系ブラジル人中高生（交流会）13名

(料理会) 10名

企画内容：日本とブラジルの伝統料理を一緒に作ることで、お互いの文化についてより興味、関心、知識を深めた。

### 4) わくワークショップ「ブラ知る」

実施日：10月4日（土）静岡文化芸術大学

参加者：日本人小学生31名、ブラジル人高校生3名

企画内容：子どもたちに自分が持つ先入観に疑問を持ち、自ら相手のことを知ろうとすることの大切さを気付かせることを目的とした。

### 5) コーヒー無料提供

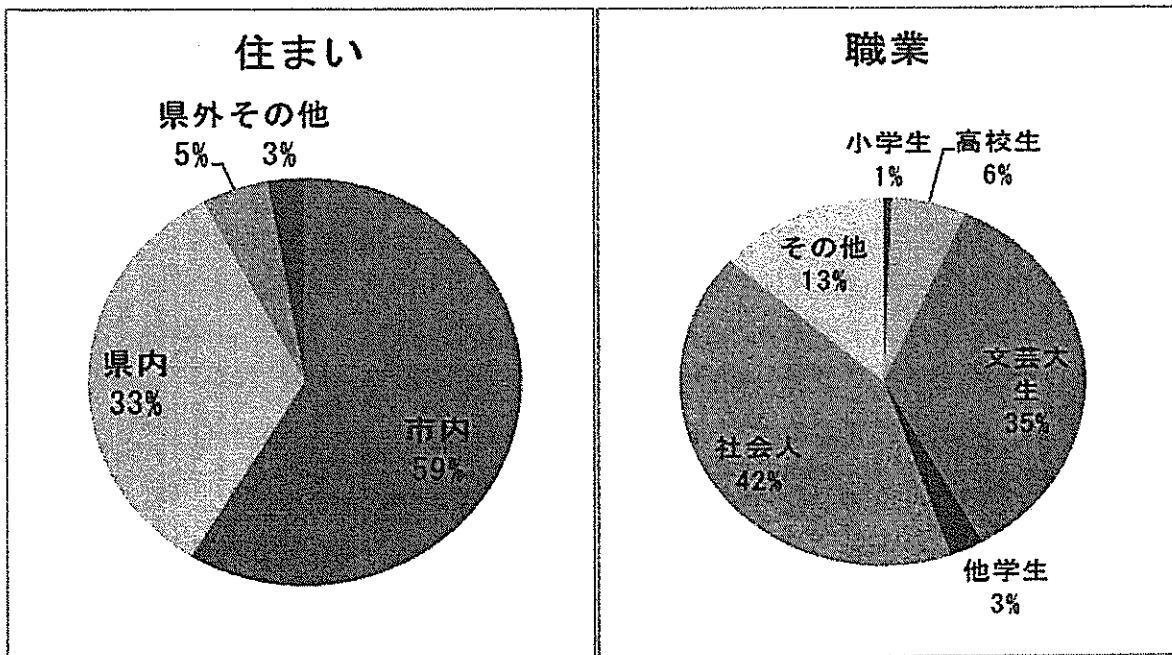
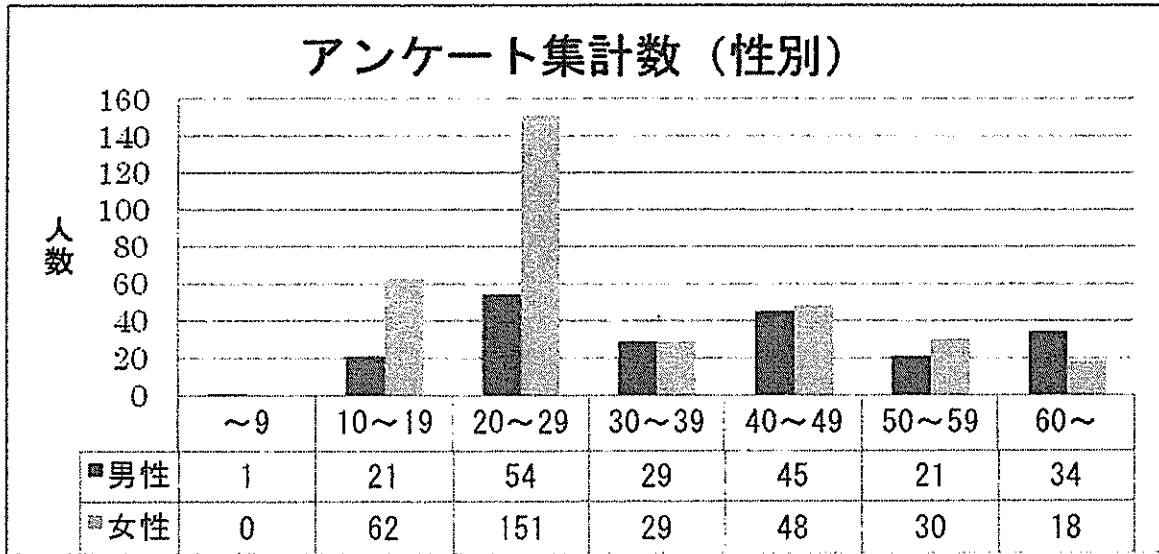
実施日：10月4日（土）、10月5日（日）、10月11日（土）、10月12日（日）

静岡文化芸術大学 西ギャラリー付近

企画内容：ブラジル風コーヒーの無料提供を行い、食を通じてブラジル文化に触れてもらうことを目的とした。

### 3.アンケート

来場者 1309 人のうち、回答は 553 人(42.2%)



## 自由記述より抜粋

ブラジルときくと、様々な固定観念が浮かんでいたのですが、ブラジル人の悩み、苦勞を始めて知りました。日本で暮らす勝手な考えでものごとを決めつけず、もっと物事の本質をみていけたらと思いました。

(10代女性、学生)

普段身近でブラジル人の子供たちの様子などを知る機会がなかった為、こんなことを考えているんだと、リアルな気持ちを知れてよかった。

(20代女性、社会人)

学生による座談会が非常に興味深く、有意義な企画だった。特に、子弟の教育、進路を巡る親子の意識の違いは、いままで全く知らなかった。若い日系ブラジル人たちの将来への思いや現在、不安をもっと聞いてみたい。その第一歩として今回の展示は素晴らしい！

(30代男性、社会人)

これからの社会は（特に浜松）は、外国人と共存していかななくてははいけません。一番共存の国、ブラジルからは私達日本人は学ぶべきことが沢山あるはずです。少しでも浜松の日本人がブラジルに対して興味をもち、心を開いて欲しいと心から思います。

(40代男性、その他)

仕事を通じて日系ブラジル人の方々と接点ができ、ポルトガル語を勉強するようになりました。明るくパワフルなところは日本人も見習うべきだし、もっと理解を深め共生の道をさぐる必要があると思います。まだまだ「外国人」に対してバイアスがあるのが本当に本当に残念です。今日見たVTRを見せたい浜松の大人がいっぱいいます。いつかはそんなこと考えなくてもよい環境になるといいと思います。しなくちゃいけない！自分にもできることを少しずつやっていきたいです。

(40代女性、社会人)